



3学期の教育活動も活発です

1年のまとめでありながら、次の学年への準備期間でもある3学期です。季節は大寒を迎えたが、1月も様々な活動が盛んに行われています。校外から人を招き、ネットワークの資源を最大限に活用して本物にふれさせ、子どもたちの学びを豊かにしています。

■ 阪神淡路大震災追悼集会

1月16日

阪神淡路大震災が起こって、31年が経ちました。今年の合い言葉は「つむぐ」。震災を知る世代から、直接知らない若い世代へ、震災の「記憶」と「教訓」を糸を紡ぐように未来へとつなぎ、形作っていくという決意が込められているのだそうです。

兵庫県では、4人に1人が震災後生まれになったと言われています。

八鹿っ子たちはもちろんですが、震災を経験していない教職員もいます。その中で、語り継いでいくことの重要性を再認識しました。八鹿小学校で震災・学校支援チーム（EARTH）の一員として活動をしている教員から、映像を交えて震災直後の神戸の様子や、震災当時ライフラインが寸断され、飲み水はもちろんのことトイレに流す水もなかったことを聞きました。災害時の備えの一つとして、非常用簡易トイレの紹介がありました。今は、ホームセンターなどでも購入することができます。「備えあれば憂いなし」地震をなくすことはできないですが、備えによって、災害を減らすことはできます。最後に「しあわせはこべるように」を全校生で歌いました。思いを込めた歌声が心に響きました。

大震災の教訓を受け継いでいくことは、これからも防災教育の大きな使命であると考えます。



震災から31年がたちました



EARTH員の先生からのお話

■ 箏体験【4年生】 1月20日

音楽の授業で、本校を卒業された地域の方を講師にお招きして本物にふれる体験学習をさせていただきました。最初に演奏を聴かせていただき、箏の流派や爪の種類、楽譜の読み方などを丁寧に教わりました。弦のひき方を学んでから、それぞれグループに分かれて実際に弾いてみました。見慣れない数字

の楽譜に、最初はぎこちない弾き方でしたが、慣れてくるとあちこちで「さくらさくら」の音色が響き始めました。あっという間の1時間でしたが、大変貴重な体験をさせていただきました。



本物の演奏に聞き入っています



実際に体験してみました

■ 災害に備える 防災食【5年生】 1月21日



自分でできる災害への備えを考えました



様々な防災食があります



学習の振り返りをしました

阪神淡路大震災から31年を迎えるました。1月21日、給食センターの中西栄養士に来ていただき、災害にあったときの食の備えとして防災食について学習しました。防災の三本柱（自助、共助、公助）を確認した後で、災害が起きて避難するときに自分が必要だと思う食べ物について考えました。

た。選んだ5つで3日間生き延びなくてはならないので、みんな真剣に考えました。

また、日ごろの備えとして、ローリングストック法（備える→食べる→買うの繰り返し）についても教えていただきました。防災食の一つであるアルファ化米もお湯を注いで作り、給食の時間にいただきました。震災を経験していない子どもたちですが、「災害時は自分で自分を守ることが大切だとわかった」「災害が起きると、不便なことがたくさんあるので、事前に準備をしておきたい」「ふだんから気をつけて備えておきたい」とふり返ることができました。

■ 八鹿青渓中学校入学説明会 1月22日

1月22日は3回目の八鹿青渓中学校6年生登校日の予定でした。6年生にとっては中学校入学に向けて最後の中学校登校になるはずでしたが、前の晩から大雪警報が発令され、当日は午後からの入学説明会と制服等の採寸に、児童と保護者が参加しました。残念ながら授業はありませんでしたが、日々の生活や学習を通して着々と卒業に向かっている6年生です。中学校への気持ちも少しずつ高まってきていると感じます。小学校生活をしっかりと仕上げていくことが、中学校への準備となります。



昨年度の入学説明会の様子

【1月の東井先生の教え】

1月の東井先生の教えは、

「書いた字にもそうじの跡にも、しづかに書いてある字にも、仕事の一つ一つにあなたが満ちている。そういう仕事をねばり強くやりつづけることのできる人」



です。つまり、自分が書いた文字やそうじの跡、そしてぞうきんのしづかに書いてある字にも、仕事の一つ一つにあなたが満ちている。そういう仕事をねばり強くやりつづけることのできる人

です。つまり、自分が書いた文字やそうじの跡、そしてぞうきんのしづかに書いてある字にも、仕事の一つ一つにあなたが満ちている。そういう仕事をねばり強くやりつづけることのできる人

です。つまり、自分が書いた文字やそうじの跡、そしてぞうきんのしづかに書いてある字にも、仕事の一つ一つにあなたが満ちている。そういう仕事をねばり強くやりつづけることのできる人